

立命館経済学総目次

第一卷第一号—第三十卷第六号
昭和二十七年—昭和五十七年

第一卷 第一号

論 説

資本主義貨幣と社会主義貨幣……………武藤 守一

統計的方法の本質……………関 彌三郎

附加価値税の本質……………箕浦 格良

わが国塩業労働における封建性と

近代性との交錯(中)……………大山敷太郎

——特に、塩業における親方制度の推移に関連しての一試論——

書 評

R. T. Bye 社会経済と価格体系……………山田 邦臣

第一卷 第二号

論 説

労働と社会発展の関係……………阿部 矢二

立命館経済学総目次

時 論

財務諸表の分析における前提的一問題……………津ノ国長四郎

中小企業と長期金融……………井上巖次郎

ポンド過剰の問題……………井上 次郎

研 究

『特殊の生産について』……………小牧 聖徳

近世における山城農民の経済生活(上)……………足立 政男

保険差益の会計処理について若干の考察……………寺島 平

第一卷 第三号

論 説

郷土産業考察の一例(上)……………淡川 康一

わが国塩業労働における

封建制と近代性との交錯(下)……………大山敷太郎

——特に、塩業における親方制度の推移に関連しての一試論——

時 論

近世における山城農民の経済生活(下)……………足立 政男

講 座

統計調査法……………関 彌三郎

資 料

LIFO価額指数構成方法……………寺島 平

第一卷 第四号

論 説

資本主義社会における小農経営……………阿部 矢二

企業の指導原則としての収益性……………祭原光太郎

教父的およびスコラの所有観……………高橋 良三

郷土産業考察の一例(中)……………淡川 康一

講 座

任意標本調査法(一)……………関 彌三郎

書 評

労働問題に関する新著二つ……………平田 隆夫

- (1) 米国連邦労働省編『米国労働運動小史』一九五一
- (2) 国際労働局編『永続的平和——国際労働機関の進路』

論 説

第一卷 第五・六号

経済学と地理学との関係……………淡川 康一

農地改革の結果の二、三について……………阿部 矢二

近世における畿内在郷商人の
高利貸資本について……………足立 政男

——山城国乙訓郡神足村絞油商油屋弥兵衛(現岡本家)の場合——

中小企業対策としての調整組合に関する問題点……………井上巖次郎

リカードオ理論における貿易による搾取の問題……………井上 次郎

わが国漁業における共同経営の典型……………大山敷太郎

資本論の学的体系性……………梯 明秀

——冒頭文節の体系的意味を分析するための序説として——

経営における職制組織……………祭原光太郎

東南アジア貿易の振興と経済開発について……………高見沢茂治

労働協約と社会保障……………平田 隆夫

ドップ恐慌論の検討……………松田 弘三

——恐慌論の基本問題について(一)——

ヒュー・ダルトンに於ける経費に関する理論……………箕浦 格良

財閥解体政策の基盤とその変遷……………武藤 守一

——日本経済の従属化と軍事化への序説——

アメリカにおける労働組合の特質と

協約のパターンについて……………森川 信

米国に於けるアクセルレイション問題……………宇都宮 巖

フィリップ・シドニーに就いて……………岡橋 祐

第二卷 第一号

論 説

資本論冒頭文節の体系的意味……………梯 明秀

郷土産業考察の一例(下)……………淡川 康一

講 座

任意標本調査法(二)……………関 彌三郎

研 究

近世山城における在郷商人の商業経営について…足立 政男

——乙訓郡足村絞油商「油屋弥兵衛」について——

O. H. Taylor のシムムペーター学説における

「帝国主義論」「社会階級論」の位置づけについて…浜崎 正規

第二卷 第二号

論 説

社会の階級性について……………阿部 矢二

——学生諸君へ——

事業課税の外形と本質……………箕浦 格良

スウィージー恐慌論の批判……………松田 弘三

——恐慌論の基本問題について(上)——

研 究

連関財に関する一考察(一)……………山田 邦臣

講 座

税務会計における貸倒準備金の繰入処理……………高尾 忠男

書 評

T・E・ミード・国際収支論……………村瀬武三郎

——国際経済政策理論第一卷——

第二卷 第三号

論 説

我国近世の経済思想(上)……………淡川 康一

——大山教授の近著を中心として——

研究

封建体制崩壊に関する一考察……………足立 政男

——畿内在郷商人の存在形態を中心に——

棚卸資産評価について……………寺島 平

——現行税法をめぐって——

税務会計上の一考察……………高尾 忠男

——ディダックションを中心として——

講座

任意標本調査法(三)……………関 彌三郎

紹介

C・S・ソロー「資本主義過程における革新」…浜崎 正規

——シユムペーター理論の批判——

第二卷 第四号

論説

危機に立つ反独占政策……………井上巖次郎

わが国労働関係の特質(一)……………大山敷太郎

ルネサンス・レフォルマチオン期

における所有観(上)……………高橋 良三

研究

利子生み資本の変容……………小牧 聖徳

——近代的銀行業の成立をめぐって——

「企業者」と資本主義過程の「革新」について…浜崎 正規

——シユムペーター学説の主要問題——

講座

任意標本調査法(四)……………関 彌三郎

第二卷 第五号

論説

諸商品集成の感性的直観(その一)……………梯 明秀

——「資本論冒頭文節の体系的意味」の第三章として——

利潤と人民の生活との対抗関係……………阿部 矢二

我国近世の経済思想(下)……………淡川 康一

——大山教授の近著を中心として——

研究

ヒックスにおける代替補完概念の吟味……………山田 邦臣

——連関財に関する一考察(二)——

講座

剰余価値説の成立過程(一)……………松田 弘三

第二卷 第六号

時 論

最近の中小企業立法……………井上巖次郎

論 說

会計学上に所謂發生主義と

實現主義に関する若干の考察……………津ノ国長四郎

諸商品集成の感性的直観（その二）……………梯 明秀

——併せて遊部、宇野、向坂の諸氏の所説について——

研 究

米国の綿花生産とその処理策……………森川 信

内部牽制組織の弱点について……………高尾 忠男

講 座

任意標本調査法（五）……………関 彌三郎

剰余価値説の成立過程（二）……………松田 弘三

第三卷 第一号

論 說

マルクスに對立する貨幣理論批判……………武藤 守一

立命館経済学総目次

ソ同盟における富農対策……………阿部 矢二

マルクス経済学の成立過程に關する一考察……………松田 弘三

——剰余価値論の生成を中心として——

諸商品集成の感性的直観（その三）……………梯 明秀

紹 介

ソヴェトにおける統計学方法論争……………関 彌三郎

第三卷 第二号

論 說

ツアイス工場……………木村喜一郎

研 究

原価管理における原価計算課の機能……………寺島 平

シュムペーター経済学の方法論的一考察……………浜崎 正規

資 料

アンリ・ドゥニ『マルクスと

資本主義経済における現在の發展』……………小牧 聖徳

書 評

庄司吉之助著『明治維新の経済構造』……………足立 政男

第三卷 第三号

論 説

いわゆる縁故募集「採用」の一典型……………大山敷太郎

——郵政省「現業職員の実態に関する調査」に基づく分析——

日本信用体系における

国家的貸付資本の地位と役割……………武藤 守一

——その一、従属化、軍事化の資金的中枢としての

日本開発銀行——

証券市場規定と第二市場……………住ノ江佐一郎

研 究

近世在郷商人の農地経営……………足立 政男

税務監査の目標について……………高尾 忠男

第三卷 第四号

論 説

わが国鉱業労働における封建性と親方制度……………大山敷太郎

カメラリスムスに於ける財政思想……………箕浦 格良

グラハム・ドッドにおける

有価証券の分類について……………住ノ江佐一郎

紹 介

マルクス主義による人間改造の問題……………阿部 矢二

C・ワーバートン『シムムペーター学説における

貨幣および景気変動』……………浜崎 正規

第三卷 第五号

論 説

賃労働者の向自有的論理構造……………梯 明秀

減価償却と客観性の要請……………津ノ国長四郎

アダム・スミスの財政論……………箕浦 格良

研 究

貨幣資本の造出とその限界……………小牧 聖徳

資 料

工業史の一断片……………淡川 康一

原価管理における原価計算の役割……………寺島 平

第三卷 第六号

論 説

四四年手稿断片「疎外された労働」における

マルクスの哲学思想(上)……………梯 明秀

唯物論についての覚書(其の一)……………阿部 矢二

日本輸出入銀行……………武藤 守一

——従属化、軍事化の貿易金融中枢としての——

研究

近世都市近郊における農民生活……………足立 政男

「標準原価計算」に関する若干の考察……………寺島 平

景気変動理論についての一試論……………浜崎 正規

第三卷 第七号

論 説

熊野灘沿岸漁村における「本役

「本家株」・半役「分家株」一制と

漁業共同経営……………大山敷太郎

住民税論……………藤谷 謙二

世界労連の結成と分裂……………平田 隆夫

新企業担保制度に関する若干問題……………井上巖次郎

日本長期信用銀行……………武藤 守一

——日本経済従属化軍事化の設備金融中枢として——

立命館経済学総目次

フォード五〇年……………木村喜一郎

発生主義の会計における実現主義の問題……………津ノ国長四郎

四四年手稿断片「疎外された労働」における

マルクスの哲学思想(中)……………梯 明秀

阿部矢二教授略年譜・研究業績

第四卷 第一号

論 説

経営学における労務の考察……………祭原光太郎

ダウ理論にたいする二つの批判……………住ノ江佐一郎

わが国鉱業〔金属〕における親方制度の解体過程……………大山敷太郎

——「わが国鉱業労働における封建性と親方制度」

補論その一——

四四年手稿断片「疎外された労働」における

マルクスの哲学思想(下の上)……………梯 明秀

資 料

工業史の一断片(下)……………淡川 康一

第四卷 第二号

論 説

J・S・ミルに於ける財政思想(一)……………箕浦 格良
証券価値論への前提……………住ノ江佐一郎

高島炭坑に見る明治初期の親方制度の実態……………大山敷太郎

——「わが国鉱業労働における封建性と親方制度」

補論その二——

四四年手稿断片「疎外された労働」における

マルクスの哲学思想(下の中)……………梯 明秀

資 料

大量通信交通と新聞の匿名主義(上)……………淡川 康一

第四卷 第三号

論 説

わが国鉱業(石炭)における

親方制度の解体過程……………大山敷太郎

唯物論についての覚え書(その二・終)……………阿部 矢二

資 料

新中国の人民券の本質と機能について……………武藤 守一

大量通信交通と新聞の匿名主義(下)……………淡川 康一

T・B・ヴェブレン方法論の論難……………浜崎 正規

第四卷 第四号

論 説

古典学派の経済的自由の制度……………井上 次郎

——スミスからリカードへ——

経営参加と労働協約……………平田 隆夫

社会統計学における統計的方法と

非統計的方法の性格……………関 彌三郎

——ジージエックを中心として——

経営設備……………祭原光太郎

税務監査をめぐる若干の問題……………高尾 忠男

アメリカに於ける会計理論と実践の展開……………津ノ国長四郎

いわゆるカントリー・ダメージについて……………高見沢茂治

米国における株価論争……………住ノ江佐一郎

アメリカにおける商業銀行の問題点……………小牧 聖徳

いわゆるダイレクト・コストイングの吟味……………寺島 平

木村喜一郎教授年譜並びに論著目録

第四卷 第五号

論 説

わが国鉱業における「友子同盟」の

解体期の実態……………大山敷太郎

——「わが国鉱業労働における封建性と親方制度」

補論その四——

J・S・ミルに於ける財政思想(二)……………箕浦 格良

研究

徳川中期における尾張一農村の考察……………岡本 幸雄

——葉栗郡里小牧村の農業構造——

資料

消費地理研究の一側面としての家計豫算……………淡川 康一

第四卷 第六号

論 說

経営における組織の運営……………祭原光太郎

世界観の生成……………阿部 矢二

資 料

新民主主義社会における金利の性格……………武藤 守一

経営管理と管理会計……………船越 弘

——ゲエッツの所論を中心として——

紹 介

G・J・ステグラ―「科学的進歩における独創性の性格と役

立命館経済学総目次

割]

“The Nature and Role of Originality in

Scientific Progress”, by G. J. Stigler ……浜崎 正規

第五卷 第一号

論 說

株式投資論の構造について……………住ノ江佐一郎

研 究

資本蓄積および恐慌にかんする

リカードの理論とセーの市場法則……………松田 弘三

資 料

沈志遠著『政治経済学大綱』緒論……………武藤 守一

徳川時代における農民の「脱落」について……………岡本 幸雄

第五卷 第二号

論 說

アメリカ労働組合運動の戦線統一……………平田 隆夫

——AFLとCIOの合同について——

近世における都市の下糞利用による農業経営……………足立 政男

——京都と西岡地帯における農業経営の場合——

三一九(一三〇七)

直交多項式による傾向線の当嵌め……………関 彌三郎
銀行機能の史的展開……………小牧 聖徳

紹介

H・R・ライト編『経営の本質』……………祭原光太郎
J・ニヒトヴァイス『メクレンブルグ
における農民追放』……………大藪 輝雄

第五卷 第三号

論説

証券市場における取引の客体としての
有価証券の本質と機能について(上)……………住ノ江佐一郎

資料

小規模企業組織に適用される原価管理……………寺島 平

紹介

レット商品についての独乙文献二・三の紹介…木村喜一郎
長谷部文雄著『資本論随筆』の紹介によせて……………阿部 矢二

第五卷 第四号

論説

無額面株式試論……………住ノ江佐一郎

資料

カール・ビュヒアーの自叙伝について……………淡川 康一
狄超白『中国の過渡期における
社会主義経済の発展と経済法則』(訳)……………武藤 守一

紹介

オートメーションと生産管理(資料)……………祭原光太郎
O・モスト『一般統計学』……………関 彌三郎
M・フリードマン『L・ワルラと
彼の経済学体系』……………浜崎 正規

寄稿

管理会計の経営的性格……………船越 弘

第五卷 第五号

論説

ビュヒアー「国民経済の成立」の編成について……………淡川 康一
資本主義社会における矛盾のひとつのあらわれ…阿部 矢二
リカードオにおける地代理論の発展……………井上 次郎
マルクス主義経済哲学原理……………梯 明秀

正義の座としての自然法思想の展開(上)……………高橋 良三
経営政策の樹立……………祭原光太郎

近世京都商人の商業経営について……………足立 政男
税務における監査の在り方……………高尾 忠男

式文『中国の過渡期における
基本的経済法則についての意見』(訳)……………武藤 守一

近世丹波馬路村における「両苗郷土」
の存在形態(一)……………岡本 幸雄

紹介
J・グロヂンスキーにおける『市場分析』……………住ノ江佐一郎
H・ルック『J・H・V・チューネンの
経済学説によせて』……………大藪 輝雄

創刊五周年にあたって

第五卷 第六号

論 説

反民権論とその基盤……………後藤 靖

——土佐古勤王党の分析——

立命館経済学総目次

マルクス主義経済哲学原理(承前)……………梯 明秀
リカードの絶対価値論について……………松田 弘三

戦後普通銀行政策の基本的性格……………小牧 聖徳
正義の座としての自然法思想の展開(下)……………高橋 良三

資料
計算機・オペレーションズ・リサーチ・
線型計画……………祭原光太郎

荘鴻湘「中国の過渡期における
客観的経済法則に関する若干の意見」……………武藤 守一

「労働と律動」に於ける日本関係の記事……………淡川 康一

第六卷 第一号

論 説

価値論および分配論における

アダム・スミスとリカード(上)……………岡崎 栄松

反民権論とその基盤(二)……………後藤 靖

時 論

中小企業団体組織法案の問題点……………井上巖次郎

資 料

三二一(一三〇九)

「国民経済進化論」の根本思想……………淡川 康一

株式価格の構成にかんする二つの見解……………住ノ江佐一郎

——ドンナーとレフラーのばあい——

第六卷 第二号

近世後期における

故高見沢茂治教授遺影

地方商業資本の発達とその活躍……………足立 政男

論 説

近世における日本海沿岸の

——丹後国浅川商人山中九兵衛家の場合——

足立 政男

帆船航運の状況について……………足立 政男

——丹後国網野縮緬機業地帯における

山中九兵衛家の文書を中心として——

部落有林野解体の一面……………大藪 輝雄

——奈良県吉野郡旧中荘村の場合——

価値論および分配論における

AFLとCIOの合同をめぐる論議……………平田 隆夫

アダム・スミスとリカアドウ(下)……………岡崎 栄松

資 料

Arthur J. Goldberg, AFL-CIO ; Labor United.
New York, McGraw-Hill Book Co, Inc. 1956.
xiii 319pp. を読む——

F・ハーピソン「経済発展における

要因としての企業者組織」……………浜崎 正規

第六卷 第四号

故 高見沢茂治教授略歴・主要著書論文目録

論 説

追憶文

正義の担い手としての国家と社会……………高橋 良三

(藤谷謙二、井上次郎、岡橋祐、宇都宮巖、高橋喜久夫)

近世における丹後縮緬産地問屋の利貸と

土地集中形態について……………足立 政男

第六卷 第三号

——丹後国加悦谷縮緬機業地帯における

論 説

杉本利右衛門家の文書を中心として——

ミュンヘン・景気調査法とその統計的性格…………… 関 彌三郎

——新しい推算統計の一例——

資 料

労働価値説と史的唯物論の成立…………… 松田 弘三

——ローゼンベルグ

『初期マルクス経済学説の形成』によせて——

第六卷 第五号

論 説

株式会社の資本調達…………… 小島昌太郎

自由党の危機…………… 後藤 靖

研 究

グーツヘルシャフトの成立…………… 大藪 輝雄

——メクレンブルグを中心として——

資 料

近世郷土の存在形態(上)…………… 岡本 幸雄

——丹波馬路村「両苗郷土」の経済的基盤と村方支配——

第六卷 第六号

論 説

立命館経済学総目次

利子率決定要因に関する

F・H・ハーンの見解について…………… 山田 邦臣

戦後における大銀行の推移…………… 小牧 聖徳

——預金・貸出・証券・借入を中心として——

T・ガイガーの『資本論』批判について…………… 岡崎 栄松

インヴェントウリ・リザーヴに関する吟味…………… 高尾 忠男

資 料

朝鮮民主主義人民共和国の通貨・金融…………… 武藤 守一

現代経営の理論的基礎(上)…………… 植村 省三

——その典型としてのドラッカー理論——

第七卷 第一号

論 説

近世丹後縮緬機業地における糸問屋の存在形態…………… 足立 政男

——丹後国加悦町杉本利右衛門家文書を中心として——

月別傾向線の当嵌め方法…………… 関 彌三郎

資 料

現代経営の理論的基礎(下)…………… 植村 省三

——その典型としてのドラッカー理論——

紹介

W・アダムス・H・M・グレイ

『アメリカにおける国家と独占』……………辻 和夫

書評

カール・ビュヒアー『国民経済進化論』第二集…高橋 良三

—淡川康一教授の訳業について—

第七卷 第二号

論説

国民経済と地理的環境……………淡川 康一

オーウェン主義の生成……………松田 弘三

—ニュー・ラナーク実験と工場法運動—

内職労働者の量的存在に関する調査と推定(上)…坂寄 俊雄

—大阪府における実態調査を通じて—

資料

幕末の株仲間……………奥田 修三

—京都嵯峨・梅津・桂三ヶ所材木仲間について—

紹介

F・ノイマン『ビヒモス』……………川本 和良

第七卷 第三号

論説

土佐藩郷士制度の解体過程について(その一)…後藤 靖

G・ミュルダールの低発展国開発論……………浜崎 正規

内職労働者の量的存在に関する調査と推定(中)…坂寄 俊雄

—大阪府における実態調査を通じて—

資料

中国の銀行業と貨幣改革の発展情況……………武藤 守一

割賦販売による未実現総利益の

貸借対照表における表示について……………桑原 幹夫

紹介

エ・ペ・ゲンキナ『ソヴェト国家の新経済

政策への移行(一九二一—一九二二年)』……………岡崎 栄松

第七卷 第四号

論説

オーウェン主義の成立……………松田 弘三

—一八一五年恐慌とロバート・オーウェン—

近世丹後縮細機業地帯における

商業資本家の存在形態……………足立 政男

——丹後国加悦町下村五郎助家文書を中心として——

貨幣取扱資本の成立と発展……………小牧 聖徳

——近代的銀行業の成立をめぐって——

研 究

いわゆる分権的管理組織について……………植村 省三

資 料

ヴェ・バトウィルフ『社会主義のもとでの

商品生産の必然性と本性について』(訳)……………岡崎 栄松

第七卷 第五号

論 説

内職労働者の量的存在に関する調査と推定(下)……………坂寄 俊雄

——大阪府における実態調査を通じて——

土佐藩郷土制度の解体過程について(その二)……………後藤 靖

近世後期における都市商人……………奥田 修三

——奈良晒市青亭中買について——

研 究

国有企業経営管理機構論序説(その一)……………辻 和夫

立命館経済学総目次

——英国公共企業体の研究——

アメリカにおける割賦販売の

収益認識理論の発展とその現実的基礎……………桑原 幹夫

第七卷 第六号

論 説

『資本論』体系の図式的解明(上)……………梯 明秀

J・B・ウィリアムスの「投資価値理論」

における株価分析の構造……………住ノ江佐一郎

管理における統制機能……………祭原光太郎

貸借対照表監査と損益計算書監査……………高尾 忠男

動学的レオンティエフ・システムと

フィード・バック効果……………岡崎不二男

研 究

国有企業経営管理機構論序説(その二)……………辻 和夫

——英国公共企業体の研究——

資 料

近世郷土の存在形態(下)……………岡本 幸雄

——丹波馬路村「両苗郷土」の経済的基盤と村方支配——

第八卷 第一号

論 説

封建地代の形態転化とその合法則性……………阿部 矢二

『資本論』体系の図式的解明(中)……………梯 明秀

中国人民大学『資本主義国家の

貨幣流通と信用』……………武藤 守一

株価分析の重要性について……………住ノ江佐一郎

オーウェン主義の完成……………松田 弘三

——『ラナーク州への報告』を中心とする

オーウェンの経済思想——

近世丹後縮緬機業における株仲間の一考察……………足立 政男

直線傾向線と季節指数の図的計算……………関 彌三郎

エス・デ・スカスキンの『中欧および東欧における

いわゆる「再版農奴制」の基本的諸問題』……………大藪 輝雄

欧州共同市場における若干の問題点……………清水 貞俊

井上次郎教授略年譜・主要著作目録

第八卷 第二号

論 説

労働価値論の生成にかんする一考察……………松田 弘三

——その自然価格論との関連を中心として——

『資本論』体系の図式的解明(下の一)……………梯 明秀

研 究

経営学における制度論的思考……………植村 省三

紹 介

W・エンゲルス『ライン州における

償却と共有地分割』……………川本 和良

第八卷 第三号

論 説

中央銀行にかんする一考察……………小牧 聖徳

低発展国開発論をめぐる原理的一問題……………浜崎 正規

——P・T・バウアー氏のミューダール批判——

経営者の社会的責任……………祭原光太郎

Dixon-Yates 契約について……………辻 和夫

——国家と独占資本との合体の一例証——

資 料

割賦販売の契約不履行および

取戻し商品の会計処理……………桑原 幹夫

——とくに H. A. Finney の所説について——

紹介

英国で入手した一地図帳に就いて……………淡川 康一

第八卷 第四号

論説

大和における国詠……………奥田 修三

——近世大和の農業構造との関連において——

J・S・ミルの財政論……………齋藤 博

経営統計の基本問題にかんする一試論……………坂寄 俊雄

研究

割賦販売会計における総利益の算出方法……………桑原 幹夫

紹介

本多直重氏「日本銀行の機能と政策」……………武藤 守一

第八卷 第五・六号

論説

経済哲学のための一般的序説……………梯 明秀

立命館経済学総目次

「土地報酬」にかんする基本的考察……………松野 昭二

——中国農業の集団化・農業生産協同組合における特徴の解明のために——

第二市場論(一)……………住ノ江佐一郎

損益分岐図表に関する一考察……………寺島 平

——その信頼性と有用性について——

研究

フランソア・ケネーにおける財政思想……………箕浦 格良

アメリカにおける割賦販売の営業諸費用

及び貸倒金の会計処理について……………桑原 幹夫

欧州経済共同体の性格……………清水 貞俊

——その「超国家的」性格をめぐって——

『資本論』の学問的体系と『帝国主義論』……………本岡 昭良

卷九卷 第一号

論説

超過利潤と差額地代……………白杉庄一郎

——向坂説の検討——

証券の上場について……………住ノ江佐一郎

研究

〈疎外された労働〉の概念(一)……………細見 英

資料

官房学派に於ける財政思想……………箕浦 格良
第二市場論(二)……………住ノ江佐一郎

和歌山県地租改正反対一揆……………後藤 靖

第九卷 第二号

論 説

世界市場と世界経済体制……………小椋 広勝

幕末・明治維新における

郷士の政治的運動の展開……………岡本 幸雄

——旗本領丹波馬路両苗郷士について——

証券分析の証券投資理論における地位……………住ノ江佐一郎

減価償却における更新機会……………服部 俊治

——George Terborgh 氏の減価償却論研究——

研 究

〈疎外された労働〉の概念(二)……………細見 英

第九卷 第三号

論 説

マネジメント小論(一)……………祭原光太郎

官房学派に於ける財政思想……………箕浦 格良

第二市場論(二)……………住ノ江佐一郎

株式会社支配論の新しい傾向……………植村 省三

——A・Aバーリの所説をめぐって——

官津藩の丹後縮緬機業政策について(一)……………足立 政男

資 料

官津藩の丹後縮緬機業政策について(二)……………足立 政男

第九卷 第四号

論 説

経済地理的に見た政治圏と経済圏……………淡川 康一

資本蓄積の租税構造論……………加藤 睦夫

——シャープ勧告の評価によせて——

商法計算規定改正要綱

法務省民事局試案について……………河合 信雄

マネジメント小論(二)……………祭原光太郎

資 料

官津藩の丹後縮緬機業政策について(二)……………足立 政男

第九卷 第五号

論 說

差額地代にかんする剰余生産物説……………白杉庄一郎

—— 榎田説批判 ——

価値尺度機能と価格の度量基準機能……………小牧 聖徳

—— 天沼説への私見 ——

研 究

国有企業価格政策論争について……………辻 和夫

十八世紀におけるライン織維工業の

展開と「営業の自由」の前提条件(一)……………川本 和良

第九卷 第六号

論 說

賃労働者の範疇的把握(上)……………梯 明秀

—— マルクスの「商品人間の自己意識」の分析に限定して ——

戦後日本の農業制度の破綻……………井上 晴丸

古典学派に於ける財政思想(一)……………箕浦 格良

—— A・スミスとJ・S・ミルの租税原則論の展開 ——

丹後機業地における労使関係について……………足立 政男

立命館経済学総目次

研 究

十八世紀におけるライン織維工業の

展開と「営業の自由」の前提条件(二)……………川本 和良

第十卷 第一号

論 說

労務管理の対象……………坂寄 俊雄

賃労働者の範疇的把握(中)……………梯 明秀

—— マルクスの「商品人間の自己意識」の分析に限定して ——

士族反乱の構造的特徴について……………後藤 靖

研 究

資本予算と減価償却……………服部 俊治

—— 投資利益率に及ぼす加速的減価償却の効果 ——

第十卷 第二号

論 說

賃労働者の範疇的把握(下)……………梯 明秀

—— 「商品人間」と「労働人間」との媒介的統一として ——

士族反乱の構造的特徴について(二)……………後藤 靖

三二九(一三二七)

ザクセン州における農業労働力の存在形態(一)……………大藪 輝雄
地方証券取引所の諸問題……………住ノ江佐一郎

研究

地域産業連関表利用の一例……………岡崎不二男

第十卷 第三号

論 説

都府経済の段階と現今の広域経済圏の問題……………淡川 康一

大学と労働者教育……………平田 隆夫

日本海運における独占形態……………岡庭 博

ヒルファーディングにおける株価分析……………住ノ江佐一郎

経営分析の新しい概念……………田中 米一

わが国最低賃金法について……………坂寄 俊雄

十八世紀イギリスの貿易構造……………角山 栄

社会統計における統計的規則性の意義と限界……………関 彌三郎

農村人民公社の所有制と発展構造……………松野 昭二

——「生産隊を基本とする三級所有制」——

G・ミュルダールの価値判断論……………浜崎 正規

井上巖次郎教授年譜・主要著作目録

第十卷 第四号

論 説

銀行資本の本質とその現象……………小牧 聖徳

アメリカ独占体の財務構造……………中村 萬次

広い意味での経済学について……………木原 正雄

——社会主義経済学の生成と発展——

資 料

J・ミル『政治経済学綱要』への批判的評注……………細見 英

——マルクスの最初の経済学研究より——

第十卷 第五・六号

論 説

マルクス主義経済哲学の成立の必然性……………梯 明秀

現代企業の構造と経営者の活動……………植村 省三

——経営職能論序説——

研 究

近世丹後縮緬機業に於ける飛脚制度について……………足立 政男

わが国における割賦販売会計の理論……………桑原 幹夫

第十一卷 第一・二号

論 說

(遺稿) 差額地代と不当価値説……………白杉庄一郎

——山田説批判——

経済学研究の出発点にある哲学的課題……………梯 明秀

——四四年『手稿』におけるマルクス自身の

思弁哲学についての分析的吟味として——

いわゆる使用価値の捨象にかんする一考察……………岡崎 栄松

——故白杉教授『価値の理論』によせて——

白杉独占理論の構造……………平瀬巳之吉

——特別剰余価値は独占利潤の源泉でありうるか——

『その意欲だにあらば』

オーストリアは万国を凌がん……………出口 勇蔵

——ヘルニク研究序説——

ヘーゲル市民社会論とマルクス……………細見 英

アイルランド羊毛工業の抑圧……………角山 栄

——イギリス重商主義論——

生産関係の国家的形態としての

国家独占資本主義について……………井汲 卓一

人口と就業状況……………坂寄 俊雄

立命館経済学総目次

——国勢調査結果による——

故白杉庄一郎教授略歴・主要著作目録

第十一卷 第三号

論 說

経済と政治における自由の展生(一)……………高橋 良三

——その史的概観——

経済学研究の出発点にある哲学的課題(承前)……………梯 明秀

——四四年『手稿』におけるマルクス自身の

思弁哲学についての分析的吟味として——

戦後財政整理の性格……………加藤 睦夫

イギリスにおける経済学史研究の現状一斑(一)……………松田 弘三

——ケムブリッジ大学におけるその近況を中心として——

研 究

わが国における割賦販売会計の理論(統)……………桑原 幹夫

第十一卷 第四号

論 說

不換銀行券の本質……………小牧 聖徳

石炭危機の本質と石炭調査団の限界……………戸木田嘉久

立命館経済学(第三十卷・第六号)

三三二(一三三〇)

中国国民経済の発展過程(一)……………松野 昭二

——工・農業関係の発展を中心として——

イギリスにおける経済学史研究の現状一斑(一)……………松田 弘三

——ケムブリッジ大学におけるその近況を中心として——

研究

地域開発と欧州投資銀行……………清水 貞俊

第十一卷 第五・六号

論 説

古典学派の二つの貿易理論……………井上 次郎

「労働の疎外」と「労働力の商品化」……………清水 正徳

——梯 明秀教授の所説によせて——

いわゆる「平均化原理」と「限界原理」……………井上 晴丸

——白杉理論への疑問——

「経済学方法論」と統計方法……………大橋 隆憲

「梯経済哲学」を生かすもの……………平井 俊彦

白杉価値論に关する若干の考察……………岡崎 栄松

——いわゆる「効用測定の原理」を中心として——

宇野氏「経済法則」論批判……………吉村 達次

独占的剰余価値と価値・価格理論……………松田 弘三

——平瀬教授の白杉独占理論批判の検討——

財政制度論の一視点……………加藤 睦夫

——戦後初期における制度改革を中心として——

E E C内部の国際分業法則について……………清水 貞俊

——合意的分業の原理によせて——

梯 明秀教授略歴・主要著作目録

第十二卷 第一号

論 説

計量経済学モデルによる

戦後景気循環の構造分析(一)……………岡崎不二男

——制約された循環か自由な循環か——

経済と政治における自由の展生(二)……………高橋 良三

——その史的概観——

広い意味での経済学について(承前)……………木原 正雄

——「社会主義経済学」の生成と発展——

中国国民経済の発展過程(二)……………松野 昭二

——工・農業関係の発展を中心として——

第十二卷 第二号

論 説

A・スミス D・リカアドオ J・S・ミル

における租税理論の展開…………… 箕浦 格良

——古典学派における財政思想 (一)——

戦後地方経費の展開過程…………… 加藤 睦夫

一八世紀後半および一九世紀前半におけるライン・

ヴェストフアールン鉄加工業の発展と市場構造…………… 川本 和良

第十二卷 第三号

論 説

社会統計における母集団の意義…………… 関 彌三郎

A・スミス D・リカアドオ J・S・ミル

における租税転嫁論の展開…………… 箕浦 格良

——古典学派における財政思想 (二)——

計量経済学モデルによる

戦後景気循環の構造分析(一)…………… 岡崎不二男

——制約された循環か自由な循環か——

第十二卷 第四号

論 説

立命館経済学総目次

経済における国家の問題(一)…………… 高橋 良三

金融資本にかんする一考察…………… 小牧 聖徳

A・スミス D・リカアドオ J・S・ミル

における租税転嫁理論の考察…………… 箕浦 格良

——古典学派における財政思想 (四)——

広い意味での経済学について(承前)…………… 木原 正雄

——「社会主義経済学」の生成と発展——

資 料

重補助「マルクス再生産表式の

具体化についての試論」…………… 松野 昭二

——社会的生産物の生産と使用の統一的角度から——

第十二卷 第五・六号

論 説

リカアドオと農業…………… 井上 次郎

西独の労働者教育…………… 平田 隆夫

経済学における分析モデル…………… 今川 正

『資本論』における科学と哲学…………… 清水 正徳

——梯 明秀教授の所説によせて——

現段階における農民層分解の特質……………大藪 輝雄
独占資本主義のもとでの経済成長の限界……………白杉庄一郎

(遺稿「剰余価値の理論」の中の一節)

第十三卷 第一・二号

論 説

自然成長率にかんする覚え書……………建林 正喜

協同組合とマルクス主義……………井上 晴丸

——協同組合発展の歴史的弁証法——

経済における国家の問題(一)……………高橋 良三

発展戦略の再検討……………浜崎 正規

——低開発国の発展拠点の問題——

〈広義の経済学〉否定論の系譜……………芦田 文夫

——ブハーリン・宇野教授の所説をめぐって——

広い意味での経済学について(承前)……………木原 正雄

——社会主義経済学の生成と発展——

書 評

足立政男著『丹後機業史』……………堀江 保蔵

杉原四郎著『マルクス経済学の形成』……………細見 英

第十三卷 第三号

論 説

最近の資本蓄積と低賃金構造(上)……………戸木田嘉久

現代資本主義と利潤率傾向的低落の法則……………手島 正毅

——独占と技術革新——

資 料

董輔礪「ことなる拡大再生産の途の下での

社会主義的再生産の比例関係について」……………松野 昭二

——マルクス再生産表式の具体化についての再論——

書 評

建林正喜『外国貿易と産業循環』……………杉本 昭七

第十三卷 第四号

論 説

金融資本の検討(上)……………小牧 聖徳

地租改正反対一揆について……………後藤 靖

最近の資本蓄積と低賃金構造(下)……………戸木田嘉久

資 料

マックス・ウェーバー『東エルベ農業労働者の

状態における発展諸傾向』(一)……………大藪 輝雄
吉矢 友彦

書 評

浜崎正規著『近代経済学の方法と理論』……………岡崎不二男

有田正三著『社会統計学研究』……………関 彌三郎

第十三卷 第五号

論 説

池田経済成長政策の矛盾……………武藤 守一

A・スミス J・S・ミルにおける

国家経費に関する理論の展開……………箕浦 格良

——古典学派における財政思想 (四)——

金融資本の検討(下)……………小牧 聖徳

韓国の工業化過程……………朴 守鉉

——解放後の問題を中心にして——

資 料

マックス・ウェーバー『東エルベ農業労働者の

状態における発展諸傾向』(二)……………大藪 輝雄
吉矢 友彦

第十三卷 第六号

論 説

不安定性原理について……………建林 正喜

「地域開発」論序説……………浜崎 正規

——いわゆる「社会開発」問題との関連で——

A・スミス、J・S・ミルにおける

国家経費に関する理論の展開Ⅱ……………箕浦 格良

——古典学派における財政思想 (六)——

資 料

管大同『中国における資本主義商工業の

社会主義改造』……………武藤 守一

——第八章「マルクス・レーニン主義の普遍的真理と

中国革命の具体的実践との結合の勝利」——

書 評

梯 明秀著『経済哲学原理』……………山中 隆次

第十四卷 第一号

論 説

立命館経済学総目次

民権運動研究の課題と方法……………後藤 靖

A・スミス、J・S・ミルにおける

国家経費に関する理論の展開Ⅲ……………箕浦 格良

——古典学派における財政思想(七)——

社会主義経済学の生成と発展(承前)……………木原 正雄

——「労働支出の法則」について——

資 料

イタリア経済の動向……………足立 政男

書 評

関彌三郎著『社会統計学』……………有田 正三

第十四卷 第二号

論 説

国家独占資本主義の研究手法……………手島 正毅

県外からの勤労所得による県民所得統計の補正…関 彌三郎

紹 介

ツァゴロフ編『政治経済学教程、第二卷、社会主義』

とソ連邦における社会主義政治経済学の体系を

めぐる論争……………小野 一郎

書 評

梅津和郎著『現代国際経済理論』……………建林 正喜

第十四卷 第三号

論 説

敗戦直後における通貨金融政策

の独占資本的性格……………武藤 守一

A・スミス、D・リカード、J・S・ミルに

於ける公債に関する理論の展開Ⅰ……………箕浦 格良

——古典学派における財政思想(八)——

資 料

キム・スンジュン『南朝鮮における農地改革』

第十四卷 第四号

論 説

不均等発展と不均衡発展(その一)……………建林 正喜

近世京都商人の別家制度(1)……………足立 政男

シュンペーターの景気循環理論……………小野 進

——その批判的考察——

資料

董輔弼「生産物の分配・使用と

二部門比例との関係」……………松野 昭二

——マルクス再生産表式の具体化についての検討

(第三部)——

E E Cにおける資本移動自由化並びに

企業提携とそれに附随する諸問題……………清水 貞俊

不均等発展と均衡発展(その2)(完)……………建林 正喜

海外留学記

ミラノからスイスへの旅……………足立 政男

共同研究室

資本論の方法論的体系……………梯 明秀

第十四卷 第五号

論説

北九州市における市税構造と諸階級……………加藤 睦夫

現段階の資金政策……………小牧 聖徳

——国家独占資本主義法則の貫徹——

近世京都商人の別家制度(2)……………足立 政男

資料

キム・クワンズウン「マルクスの『アジア的

土地所有形態』と『封建的土地国有制』に

関する諸問題」

第十五卷 第一号

論説

利潤率低下の阻止要因としての

独占の意義と限界……………手島 正毅

——私的独占より国家独占への移行法則として——

E E Cの共通エネルギー政策……………清水 貞俊

A・スミス D・リカードオ J・S・ミル

における公債に関する理論の展開II……………箕浦 格良

——古典学派における財政思想 (6)——

資料

労働力不足と中小企業の実態(一)……………浜崎 正規

経済学の若干の基本問題……………相澤 秀一

第十四卷 第六号

論説

立命館経済学総目次

海外留学記

ドイツの旅……………足立 政男

学界動向

マルクス主義における〈思想と科学〉・

〈論理と歴史〉……………細見 英

第十五卷 第二号

論 説

「産業革命」以前における石炭鉱業の形成……………戸木田嘉久

——日本炭鉱労働者状態史のための覚書(1)——

近世における京都室町商人の系譜(1)……………足立 政男

A・スミス D・リカードオ J・S・ミル

における公債に関する理論の展開Ⅲ……………箕浦 格良

——古典学派における財政思想(1)——

資 料

労働力不足と中小企業の実態(1)……………浜崎 正規

第十五卷 第三号

論 説

日本資本主義の各発展段階におけるインフ

レーションの諸形態と諸特徴……………武藤 守一

近世における京都室町商人の系譜(2)……………足立 政男

A・スミス、D・リカードオ、J・S・ミル

における租税理論の展開Ⅱ……………箕浦 格良

——古典学派における財政思想(1)——

国家独占資本主義論についての覚え書……………井上 晴丸

——池上惲氏の名著『国家独占資本主義論』を読んで——

書 評

吉村達次『経済学方法論』……………相澤 秀一

第十五卷 第四号

論 説

エネルギー問題の所在……………有澤 広巳

スウェーデンにおける「ケインズ革命」論考……………浜崎 正規

A・スミス、D・リカードオ、J・S・ミル

における租税理論の展開Ⅲ……………箕浦 格良

——古典学派における財政思想(1)——

海外留学記

ソヴェト旅行雑感……………岡崎 栄松

第十五卷 第五・六号

論 説

法人課税の発展史的考察(上)……………加藤 睦夫

資本自由化と中小企業……………武藤 守一

社会主義的分配関係の本質について(一)……………小野 一郎

A・スミス、D・リカアドオ、J・S・ミル

における租税理論の展開Ⅳ……………箕浦 格良

——古典学派における財政思想④——

資 料

工業都市の市民所得……………建林 正喜

商業都市の市民所得……………建林 正喜

書 評

内田義彦『資本論の世界』……………岡崎 栄松

第十六卷 第二号

論 説

金融資本における信用と国家……………小牧 聖徳

社会主義的分配関係の本質について(二)……………小野 一郎

資 料

フレット・エルスナー「独占価格と独占利潤」

キム・スンジュン「農地改革」後の南朝鮮農業政策

——『南朝鮮における農政改革』(続)——

書 評

今堀誠二著『毛沢東研究序説』……………松野 昭二

第十六卷 第一号

論 説

戦後炭鉱労働運動の展開過程(1)……………戸木田嘉久

A・スミス、D・リカアドオ、J・S・ミル

における租税理論の展開Ⅴ……………箕浦 格良

——古典学派における財政思想④——

資 料

立命館経済学総目次

論 説

『資本論』初版以後と

その各国における普及状況……………長谷部文雄

『資本論』の周辺……………相澤 秀一

現代の恐慌とマルクス恐慌論……………小椋 広勝

初期マルクスの経済理論について……………岡崎 栄松

——『経済学』哲学手稿』を中心として——

帝国主義論……………小野 進

——シュンペーターとレーニン——

研究ノート

法学と経済学との中間領域にある

若干の問題(その一)……………梯 明秀

——藤田勇氏の論文「法と経済との一般理論」についての部分的紹介とそれについての備忘録として——

資料

駱耕 漢『資本論』第一章第四節の

要点と疑問についての試論……………松野 昭二

——『経済研究』誌一九六三年第五期——

書評

手島正毅教授著『日本国家独占資本主義論』……………豊崎 稔

第十六卷 第五・六号

論 説

過渡期における国家資本主義の諸形態……………手島 正毅

日本の近代化過程における貿易構造の変化……………清水 貞俊

ルール石炭鉱業の展開とプロイセン鉱業法(一)……………川本 和良

戦後炭鉱労働運動の展開過程(2)……………戸木田嘉久

資料

自由民権期の府県会闘争(一)……………後藤 靖

書評

後藤靖著『士族反乱の研究』……………遠山 茂樹

第十七卷 第一号

論 説

A・スミス、D・リカアドオ、J・S・ミル

における租税理論の展開(VI)……………箕浦 格良

——古典学派における財政思想論——

研究

近代経済学批判の目的と方法、そして

近代経済学の性格規定についての若干の考察(その一)……………小野 進

——関恒義著『現代資本主義と経済理論』の所説に関連して——

独占と恐慌……………森 啓子

——自己回復力の喪失について——

資料

中国における国家資本主義・賃金制度

にかんする諸問題……………手島 正毅

——往復書簡の抜粋——

自由民権期の府県会闘争(二)……………後藤 靖

——参事院法制局裁定書——

書評

岡崎栄松『資本論研究序説』……………平瀬巳之吉

第十七卷 第二号

論 説

ルール石炭鉱業の展開とプロイセン鉱業法(二)……………川本 和良

研 究

近代経済学批判の目的と方法、そして

近代経済学の性格規定についての

若干の考察(その二)……………小野 進

——関恒義著『現代資本主義と経済理論』の所説に関連して——

立命館経済学総目次

資 料

調整期における国民経済と対外貿易……………松野 昭二

ヴェ・エス・ネムチーノフ

社会的分業の静学モデル……………小野 一郎

第十七卷 第三・四号

箕浦格良教授還暦祝賀論文集発刊に憶う……………武藤 守一

論 説

マルクスの国家観と財政論……………大谷 政敬

産業資金と国家資金……………小牧 聖徳

A・デ・ヴィティ・デ・マルコの財政理論……………西村 正幸

——その公共財生産理論を中心として——

近世京都商人邦波家の江戸店経営と

その没落について……………足立 政男

わが国の出生性比の上昇について……………関 彌三郎

シユムペーター・モデルの再検討(上)……………浜崎 正規

——開発理論形成のための適応論争をめぐって——

箕浦格良教授 略歴・主要著作目録

第十八卷 第一号

論 說

河上・経済学の今日的意義……………相澤 秀一

ルール石炭鉱業の展開とプロイセン鉱業法(完)……………川本 和良

研究ノート

資本論における方法と世界観(上)……………梯 明秀

—その残された諸問題の一つについて—

第十八卷 第四号

論 說

京都商人の商魂について(二)……………足立 政男

—老舗の店則から見て—

研 究

ジョン・ロックの経済理論とその体系性……………稲村 勲

研究ノート

資本論における方法と世界観(中、その一)……………梯 明秀

第十八卷 第二・三号

論 說

京都商人の商魂について(一)……………足立 政男

—京都の老舗における店則から—

銀行資本における観念論批判……………小牧 聖徳

—研究方法との関連において—

労働力政策に関する覚え書……………三好 正巳

研究ノート

独占段階成立期の資本制的労働過程……………坂本 和一

—鉄鋼業の場合—

第十八卷 第五・六号

論 說

実現理論としての成長理論……………建林 正喜

高度経済成長過程における『自動安定装置』と

国家所有(素描)……………手嶋 正毅

比較生産費説の展開……………清水 貞俊

戦時労働市場に関する研究……………三好 正巳

研 究

ジョン・ロックの経済理論とその体系……………稲村 勲

研究ノート

県民所得統計の発展と県民所得標準方式……………後藤 文治
資本論における方法と世界観(中・その二)……………梯 明秀
—その残された諸問題の一つについて—

第十九卷 第一号

論 説

独占段階における独自の・資本制的生産様式……………坂本 和一
研究ノート

資本論における方法と世界観(中・その三)……………梯 明秀
—その残された諸問題の一つについて—

資 料

東ドイツにおける民主的土地改革と
農業の社会主義化(一)……………大藪 輝雄
—シュトゥラスブルク郡の場合—

第十九卷 第二号

論 説

日本における鉄道政策の展開……………杉野 罔明

立命館経済学総目次

—とくに第一次大戦後を中心として—

『帝国主義論』の方法についての一考察……………島津 秀典
—『帝国主義論』における展開と分析—
研究ノート

資本論における方法と世界観(中、その四)……………梯 明秀
—その残された諸問題の一つについて—

資 料

東ドイツにおける民主的土地改革と
農業の社会主義化(二)……………大藪 輝雄
—シュトゥラスブルク郡の場合—

第十九卷 第三号

論 説

独占段階における独自の・資本制的
生産様式と資本蓄積過程……………坂本 和一

紹 介

『経哲草稿』第一草稿の執筆順序……………細見 英
—N・I・ラービン論文の紹介—

資 料

三四三(一三三二)

近代経済学における数学利用……………建林 正喜

——その問題意識と利用方法(The Review of Economics and Statistics, Nov. 1954)のシムポジウムを回顧して——

書評

加藤佑治著『日本帝国主義下の労働政策

——全般的労働義務制の史的究明——……………三好 正巳

第十九卷 第四号

論説

経済地理学と世界経済……………杉野 園明

——地政学批判——

研究ノート

県民所得統計の発展と県民所得標準方式(続)……………後藤 文治

資料

社会主義のもとでの「使用価値と価値」……………芦田 文夫

学界動向

ヘーゲル・コングレス報告……………中埜 肇

故手嶋正毅教授を追悼して

手嶋教授の人柄と学問……………後藤 靖

手嶋教授の国家独占資本主義論……………池上 惇

遺稿……………手嶋 正毅

故手嶋正毅教授略歴・著作目録

第十九卷 第五号

論説

独占段階における独自の・資本制的

生産様式の形成……………坂本 和一

——八幡製鉄所を事例とする具体的分析——

研究

関西地方在住の炭鉱離職者の就労と

生活状態に関する調査報告……………戸木田嘉久
川端 久夫

故武藤守一教授を追悼して

追悼のことば……………末川 博

遺稿……………武藤 守一

武藤守一先生を偲んで……………関彌三郎、清水貞俊、山口真三

武藤君との同僚としての交わりにおける

その二齣、三齣……………梯 明秀

故武藤守一教授略歴・著作目録

第十九卷 第六号

相澤先生をお送りする言葉……………足立 政男

論 説

マルクス経済学における数学利用……………建林 正喜

河上 肇と古典派経済学……………杉原 四郎

アルチニエールのマルクス主義論……………重田 晃一

München 市財政の現況と問題点……………加藤 睦夫

『帝国主義論』における段階規定……………島津 秀典

研 究

ウィリアム・ペティの経済理論(上)……………稲村 勲

資 料

社会主義のもとでの「使用価値と価値」(一)……………芦田 文夫

私の履歴書……………相澤 秀一

相澤秀一教授略歴・主要著作目録

第二十卷 第一号

論 説

(続)戦時労働市場に関する研究……………三好 正巳

——「農工調整」問題を中心として——

立命館経済学総目次

独占段階における独自の・資本制的

生産様式の形成(統)……………坂本 和一

——八幡製鉄所を事例とする具体的分析(一)——

翻 訳

エヌ・エス・ニューホフ

「社会主義経済の目的関数の問題によせて

——いくつかの歴史的局面——」……………小野 一郎

第二十卷 第二号

論 説

独占利潤論の論理構成……………坂本 和一

——『資本論』の論理規定具体化の一つの試み——

搾取論・剰余価値論の論理……………甲賀 光秀

研 究

ウィリアム・ペティの経済理論(中)……………稲村 勲

——市民革命経済理論の形成——

第二十卷 第三号

論 説

三四五(一三三三)

国家・外国貿易と再生産……………建林 正喜

——国家独占資本主義分析のための準備ノート——

経済地理学方法論における

「経済地域」について……………杉野 罔明

独占段階における独自の・資本制的

生産様式の形成（統）……………坂本 和一

——八幡製鉄所を事例とする具体的分析(一)——

第二十卷 第四号

論 説

独占利潤の法則と世界市場恐慌……………建林 正喜

独占段階における独自の・資本制的

生産様式の形成（統）……………坂本 和一

——八幡製鉄所を事例とする具体的分析(四)——

研究ノート

県民所得統計の発展と県民所得標準方式（統）……………後藤 文治

第二十卷 第五・六号

論 説

戦時賃銀統制に関する研究（その一）……………三好 正巳

——国家独占資本主義賃銀統制の必然性について——

現代巨大企業における社会的

労働過程のプロセス構造……………坂本 和一

研 究

関西地方在住の炭鉱離職者の就労と

生活状態に関する調査報告（統）……………戸木田嘉久
川端 久夫

資 料

独占資本主義確立過程の工業構成（その一）……………伊藤 武夫

——「工場統計表」からみた八六正期V民営工業の発達趨勢——

書 評

中国官僚独占資本主義の

本質問題について……………松野 昭二
芝池 靖夫

第二十一卷 第一号

論 説

「均衡蓄積軌道」について……………甲賀 光秀

研 究

ウィリアム・ベティの経済理論（下の一）……………稲村 勲

——市民革命経済理論の形成——

資料

社会主義のもとでの「使用価値と価値」(三)……………芦田 文夫

書評

狭田喜義『職能給の理論と方法』……………三好 正巳

第二十一卷 第二号

論説

経営者の在り方(一)……………足立 政男

——老舗の家訓・店則から見た——

現代貨幣資本の検討……………小牧 聖徳

——国家独占資本主義の貨幣資本供給——

研究

正規母集団であることの検定について……………山田 彌

翻訳

ア・ゲ・グランベルグ「社会厚生目的関数と実

用国民経済モデルにおける最適性基準」(上)……………小野 一郎

第二十一卷 第三・四号

論説

失業意識調査と最近の就業希望者の特徴……………関 彌三郎

立命館経済学総目次

戦時賃銀統制に関する研究(その二)……………三好 正巳

研究ノート

『資本論』における産業資本の

直接的生産過程論……………坂本 和一

翻訳

西ドイツ経済の軍事化……………振津 純雄

第二十一卷 第五号

論説

経営者の在り方(二)……………足立 政男

——老舗の家訓・店則から見た——

研究ノート

計量経済学批判における若干の問題点……………山田 彌

資料

日本資本主義確立期の「会社」

および「役員名簿」(一)……………後藤 靖

第二十一卷 第六号

論説

三四七(一三三五)

北九州における工業立地と土地利用問題……………杉野 閉明

伝統こけしの経済的研究……………杉野 閉明

研究

紹介

ウィリアム・ペティの経済理論(完)……………稲村 勲

A・ライオンフート『ケインズ派
経済学とケインズの経済学』(一)……………小野 進

——市民革命経済理論の形成——

——貨幣理論の研究——

第二十二卷 第一号

論説

第二十二卷 第三・四号

株仲ケ間の一考察……………足立 政男

建林正喜先生をお送りする言葉……………関 彌三郎

——京都における老舗の経営から見た——

論説

インフレーションの経済構造……………小牧 聖徳

新古典派成長論の政策的含意……………置塩 信雄

翻訳

二重経済の諸問題……………北村 元一

ア・ゲ・グランベルグ「社会厚生目的

『資本論』と「競争」論……………高木幸二郎

関数と実用国民経済モデルにおける

フィリップス曲線を含む不均衡動学モデル……………安井 修二

最適性基準」(下)……………小野 一郎

社会主義経済と最適経済機能システム論……………小野 一郎

第二十二卷 第二号

論説

現代社会政策論の課題……………三好 正巳

「総供給価格」考……………建林 正喜

資本価値の破壊に関する若干の問題……………杉野 閉明

——E・K分析からD・Z分析へ——

紹介

現代巨大生産単位における労働者の存在構造……………坂本 和一

平田清明氏の価値論……………上野 俊樹

現代自主管理論の動向……………津島 陽子

——マンデルの自主管理論——

井上晴丸先生の学問的業績……………大藪 輝雄

井上晴丸教授略歴・主要著作目録

経済学研究四十年を回顧して……………建林 正喜

建林正喜教授略歴・主要著作目録

第二十三卷 第一号

論 説

乗数理論の「うそ」と「まこと」……………建林 正喜

現代巨大生産単位の生産方式……………坂本 和一

——現代の大量生産方式について——

現代自主管理論と民主主義の諸問題……………津島 陽子

——バンカール民主主義論——

紹 介

L・G・レイノルズ『経済学の三つの世界』……………小野 進

第二十二卷 第五・六号

故井上晴丸先生追悼の言葉……………関 彌三郎

論 説

现阶段における農業危機……………上原 信博

帝国主義論と「二つの道」論……………日南田静真

再生産論と地代論……………保志 恂

労働貴族論にかんする若干の覚書……………戸木田嘉久

戦後日本資本主義と林業・山村問題の展開構造……………奥地 正

研 究

「虚偽の社会的価値」の理論的根拠……………内山 昭

翻 訳

西ドイツ農業における国家独占資本主義……………振津 純雄

井上晴丸先生の人と業績

晴丸さんの想い出……………建林 正喜

第二十三卷 第二号

論 説

現実資本と貨幣資本の現代的発現……………小牧 聖徳

——社会的動向と主体的発現——

アジア的生産様式の基本的構造について……………杉野 冨明

紹 介

立命館経済学総目次

三四九(一三三七)

立命館経済学(第三十卷・第六号)

三五〇(一三三八)

カール・B・ターナー『ソヴェートに

国有用林における労働組織の形成と展開(一)……………奥地 正

おけるケインズ批判の変遷』(一)……………小野 進

書評

——東北・秋田国有用林を中心に——
現代巨大企業の生産機構……………坂本 和一

坂本和一著『現代巨大企業の生産過程』……………若林 洋夫

研究ノート
県民所得統計の発展と県民所得標準方式(終)……………後藤 文治

第二十三卷 第二号

論 説

論 説

『独占資本主義分析』試論……………甲賀 光秀

『独占資本主義分析』試論……………甲賀 光秀

研 究

国家独占資本主義における
ブルジョア経済学の機能……………振津 純雄

タイ地主制下の米価問題……………田坂 敏雄

紹 介

A・ライオンフット『ケインズ派

第二十三卷 第五・六号

経済学とケインズの経済学』(二)……………小野 進

論 説

——貨幣理論の研究——

遠慮近憂の商法と用心の経営……………足立 政男

翻 訳

——近世における老舗の家訓から見た——
国有用林における労働組織の形成と展開(二)……………奥地 正

パルヴス『世界市場と農業恐慌』(一)……………大藪 輝雄

——東北・秋田国有用林を中心に——

鈴木 敏正

研 究

第二十三卷 第四号

第二次大戦後の米国における産業循環の

論 説

法則と各局面の形態について……………田中 宏道

コンビナート社外工労働者の集積基盤……………伍賀 一道

翻 訳

張 世英『ヘーゲルの論理学』……………小野 進

第二十四卷 第一号

論 説

実体分布と度数分布……………関 彌三郎

P. A. Samuelson の Marx 批判について……………甲賀 光秀

翻 訳

宮效聞他編著『社会主義企業管理』……………小野 進

——宮效聞等編写《談話社会主義企業管理》——

第二十四卷 第二号

論 説

無理をしない商法と経営……………足立 政男

——近世における京都の老舗の家訓・店則から見て——

社会主義社会の過渡期的性格……………小野 進

——毛沢東の社会主義政治経済学への画期的な貢献——

翻 訳

立命館経済学総目次

復旦大学経済学部他編著

『社会主義政治経済学』……………小野 進

海外留学記

EC経済の最近の若干の問題点……………清水 貞俊

第二十四卷 第三号

論 説

巨大企業分析と「生産の集積」概念の展開……………坂本 和一

研 究

一九世紀末「大不況期」の過剰資本と生産の集積……………山本 幹夫

——ドイツ石炭・鉄鋼業を事例として——

重化学工業資本の強蓄積と租税政策……………藤岡 純一

翻 訳

バルヴス「世界市場と農業恐慌」(三)……………大藪 輝雄

……………鈴木 敏正

第二十四卷 第四号

論 説

欧州共同体の地域経済問題……………清水 貞俊

三五二(一三三九)

寡占的諸行動とマクロ的影響について……………北野 正一

——寡占価格論への一接近——

翻 訳

フランスにおける労働者とその家族の権利(一)……………戸木田嘉久

——フランス労働総同盟「ポケット法律便覧」から——

パルヴス「世界市場と農業恐慌」(四)……………大敷 輝雄

鈴木 敏正

第二十四卷 第五・六号

論 説

結合生産・価値・剰余価値……………甲賀 光秀

——Marx 剰余価値論への新しいタイプの批判について——

産業資本主義段階における

近代的独占の存在形態(一)……………若林 洋夫

——北東イングランド石炭独占の歴史的 성격——

研 究

戦後における企業内教育の展開……………三富 紀敬

一九二〇年代造船業における

資本制的労働過程……………清水 憲一

——川崎造船所を中心に——

翻 訳

フランスにおける労働者とその家族の権利(二)……………戸木田嘉久

——フランス労働総同盟「ポケット法律便覧」から——

第二十五卷 第一号

論 説

「有効需要の原理」とIS-LM分析……………小野 進

——ケインズ理論の現代的解釈によせて——

利潤と剰余労働……………北野 正一

——固定設備の耐用年数の決定を中心に——

欧州共同体の地域経済問題(二)……………清水 貞俊

翻 訳

フランスにおける労働者とその家族の権利(三)……………戸木田嘉久

——フランス労働総同盟「ポケット法律便覧」から——

イングラム「タイの米価問題」……………田坂 敏雄

第二十五卷 第二・三号

論 説

銀行信用・利子生み資本の論理的前提……………小牧 聖徳

社会主義経済管理における民主主義の

原理とその展開の構造について……………小野 一郎

日本資本主義確立期の資本の存在形態(一)……………後藤 靖

産業資本主義段階における近代的

独占の存在形態(二)……………若林 洋夫

最近の西ドイツ・フランス・アメリカの

研究

自主管理運動について……………津島 陽子

「完全雇用」保障計画と公共職業訓練……………三富 紀敬

書評

シャウプ勧告と戦後日本の資本蓄積……………藤岡 純一

小野一郎、篠原三郎編 『社会主義的所有と管理』……………長砂 實

研究ノート

最近のソ連学界における 「経済的社会構成体」の研究……………小檜山政克

第二十五卷 第五・六号

木村静雄教授の退任記念論文集を發行するにあたって……………戸木田嘉久

第二十五卷 第四号

論 說

論 說

「高度成長」と社会「安定」装置……………三好 正巳

人づくりこそ企業づくりである……………足立 政男

ヒルファディングの『金融資本論』の

現代社会政策論の視座と対象……………三好 正巳

背景と金融資本概念について……………田中 宏道

Hartod の長期不安定性について……………北野 正一

研 究

一八四〇年代後半におけるマルクスの

「高度成長」期における農山村の変容……………木村 一夫

経済学研究の特徴について……………津島 陽子

資本集中と過剰資本の累積……………山本 幹夫

研 究

立命館経済学総目次

戦後日本資本主義の生産力構造と公共投資……………東郷 久

日本資本主義の発展とシャープ勧告……………藤岡 純一

一九二〇年代における造船大企業の

蓄積構造(上)……………清水 憲一

研究ノート

わが国における公式国民所得統計の

発展の沿革に関する年表……………後藤 文治

資料

志布志湾漁業経済分析資料(その一)……………杉野 罔明

立命館在職三〇年をふりかえって……………木村 静雄

木村静雄教授略歴・主要著作目録

第二十六卷 第一号

論 説

現代社会政策論の起点……………三好 正巳

七〇年代地方財政の特徴について……………坂野 光俊

価格不確実性下の完全競争企業……………松川 周二

資 料

日本資本主義確立期の資本の存在形態(一)……………後藤 靖

翻 訳

R・トレンズ「国内貿易について」……………杉野 罔明

書 評

芦田文夫著『社会主義的所有と価値論』……………岡本 正

第二十六卷 第二号

論 説

人口流出と地域的産業構成の変化……………杉野 罔明

産業資本主義段階における近代的

独占の存在形態(二)……………若林 洋夫

プールドン信用論の展開……………津島 陽子

書 評

『見田石介著作集 第一巻・ヘーゲル

論理学と社会科学』……………角田 修一

第二十六卷 第三号

論 説

寄与率についての一考察……………関 彌三郎

研 究

タイ農民層分解の論理……………田坂 敏雄

——タイ中部の農家経済の分析を中心とした試論——

民生委員の階級的基盤……………三富 紀敬

資 料

日本資本主義確立期の資本の存在形態(三)……………後藤 靖

第二十六卷 第四号

論 説

戦後日本における現実資本と貨幣資本の展開……………小牧 聖徳

——量的指標と法則の貫徹——

国家と労働者階級……………三好 正巳

——植民地労働者と民族自決権——

研 究 ノー ト

雇用理論に関するノート……………河野 快晴

資 料

日本資本主義確立期の資本の存在形態(四)……………後藤 靖

第二十六卷 第五号

論 説

立命館経済学総目次

三月前期のプロイセンにおける「社会問題」

と社会政策および中間層政策の展開(一)……………川本 和良

景気循環の一モデル……………北野 正一

研 究

現代日本企業税制の諸要因……………藤岡 純一

資 料

志布志湾漁業経済分析資料(その二)……………杉野 園明

第二十六卷 第六号

論 説

外国貿易の必然性再考……………岩田 勝雄

三月前期のプロイセンにおける「社会問題」

と社会政策および中間層政策の展開(二)……………川本 和良

研 究

独占段階の過剰資本……………山本 幹夫

財政危機下の総需要抑制策と景気

浮揚策に関する一考察……………東郷 久

独占価格の実態と方法的諸問題……………佐々木秀太

第二十七卷 第一号

論 説

経済学史の意義とその方法(一)……………上野 俊樹

産業資本主義段階における近代的

独占の存在形態(四)……………若林 洋夫

——北東イングランド石炭独占の歴史的 성격——

スタグフレーション分析に関する一試論……………河野 快晴

——OECDマクラッケン・グループ報告によせて——

資 料

日本資本主義確立期の資本の存在形態(五)……………後藤 靖

第二十七卷 第二号

論 説

景気循環における新旧技術の

導入と廃棄について……………北野 正一

産業資本主義段階における近代的

独占の存在形態(五・完)……………若林 洋夫

研 究

訓練付一時帰休の経済的基盤と諸結果……………三富 紀敬

資 料

日本資本主義確立期の資本の存在形態(六)……………後藤 靖

紹 介

スティヴン・ルークス『社会科学における

KEY CONCEPT』としての個人主義……………小野 進

第二十七卷 第三号

論 説

アダム・スミスの自然価格論について(上)……………岡崎 栄松

——生産価格論の学史的考察——

寡占企業の最適広告支出に関する小論……………松川 周二

研 究

農協による経営受託……………木村 一夫

——大垣南機械化管農組合および第一機械化管農組合の場合——

価格決定機構と産業組織……………山本 幹夫

——西陣織物工業の事例的研究——

研究ノート

J・K・ガルブレイス『不確実性の時代』考……………浜崎 正規

——主要著作との位置づけをめぐる——

第二十七卷 第四号

論 説

労働価値論と需要供給の問題……………小檜山政克

アダム・スミスの自然価格論について(中)……………岡崎 栄松

——生産価格論の学史的考察——

国有林における労働組織の形成と展開(三)……………奥地 正

——東北・秋田国有林を中心に——

資 料

日本資本主義確立期の資本の存在形態(七)……………後藤 靖

第二十七卷 第五号

論 説

「地域主義」なるものへの批判……………杉野 罔明

——杉岡碩夫氏の所説について——

アダム・スミスの自然価格論について(下)……………岡崎 栄松

——生産価格論の学史的考察——

研 究

行政事務再配分における総合化原則……………藤岡 純一

——現代地方財政論序説——

立命館経済学総目次

翻 訳

J・R・マカロック著『石炭税制改革論』(上)……………若林 洋夫

第二十七卷 第六号

論 説

欧州経済通貨同盟の発展……………清水 貞俊

国際価値論の諸論点について……………岩田 勝雄

国有林における労働組織の形成と展開(四)……………奥地 正

——東北・秋田国有林を中心に——

研究ノート

現代資本主義の生産力発展段階……………坂本 和一

第二十八卷 第一号

論 説

公信用の展開……………小牧 聖徳

——信用、利子生み資本および国家との関連——

景気循環の形態に関する比較動学的分析……………北野 正一

研究ノート

ケインズ経済学の意義と限界(Ⅰ)……………山田 彌

——スキデルスキー編『ケインズ時代の終焉』をめぐって——

北野 正一
河野 快晴
松川 周二

資料

現代アメリカ鉄鋼業の生産構造……………坂本 和一

翻訳

J・R・マカロック著『石炭税制改革論』(下)……………若林 洋夫

第二十八卷 第二号

論説

「地域主義」に対する批判(上)……………杉野 罔明

——玉野井芳郎氏の所説について——

三月前期のロイセンにおける「社会問題」

と社会政策および中間層政策の展開(三)……………川本 和良

研究

価格体系と価値法則……………佐々木秀太

研究ノート

ケインズ経済学の意義と限界(Ⅱ)……………山田 彌

——スキデルスキー編『ケインズ時代の終焉』をめぐる——

北野 正一
河野 快晴
松川 周二

第二十八卷 第三・四・五号

三十周年記念論文集によせて……………塩田庄兵衛

論説

老舗外与株式会社の歴史と経営哲学……………足立 政男

平均利潤率の形成と需要供給の関係について……………小檜山政克

「地域主義」に対する批判(下)……………杉野 罔明

——玉野井芳郎氏の所説について——

近代経済学における科学性・客観性論……………浜崎 正規

価値法則の国際的展開についての一考察……………岩田 勝雄

生活手段の資本主義的形態とその廃棄……………角田 修一

独占的諸行動と均衡経路の不安定性……………北野 正一

産業構造研究の基礎視角……………甲賀 光秀

(新制)経済学部三十周年年譜

立命館経済学著者別目録

第二十八卷 第六号

論説

近代天皇制について……………後藤 靖

——鎌倉孝夫氏の批判に応える——

販売促進政策と企業成長……………松川 周二

研究

構造不況と産業組織……………山本 幹夫

——造船業における市場構造の変化と設備過剰——

『資本論』における流通必要量

概念と資本破壊……………竹味 能成

資料

志布志湾漁業経済分析資料(その三)……………杉野 罔明

第二十九卷 第一号

論 説

労働制度と労働者の権利……………三好 正巳

——「経済的民主主義」をめぐって——

南北戦争後のプランテーション経済を

めぐる最近の研究動向……………藤岡 惇

研 究

財政危機下における資金運用部資金の

財政投融资計画外運用について……………梅原 英治

研究ノート

社会主義社会の歴史的位置と発展段階区分に

ついでの見え書……………小野 一郎

書 評

小野一郎著『現代社会主義経済論』……………宮鍋 幟

立命館経済学総目次

第二十九卷 第二号

論 説

国家独占資本主義論と資本蓄積……………杉野 罔明

三月前期のプロイセンにおける「社会問題」と

社会政策および中間層政策の展開……………川本 和良

雇用増と実質賃金率増との同時

達成策について(Ⅰ)……………北野 正一

研 究

国債管理政策の二つの形態……………浅田 和史

第二十九卷 第三号

論 説

政策科学と計量経済モデル……………山田 彌

史的唯物論における生活手段の概念……………角田 修一

——生活手段の経済学的規定の意義によせて——

雇用増と実質賃金率増との同時

達成策について(Ⅱ)……………北野 正一

研 究

現代産業と産業組織分析の方法……………山本 幹夫

——産業組織の再編と市場成果規準——

工場制下の労働と家族(I)……………湯浅 良雄

——イギリス一八三三年工場法と家族——

書 評

向井俊彦著『唯物論とヘーゲル研究』……………鏖坂 真

第二十九卷 第四号

足立政男先生をお送りする言葉……………小牧 聖徳

論 説

レッドバージ……………塩田庄兵衛

日本資本主義の「八〇年代論」……………高内 俊一

地租改正と私的所有権の性格について……………後藤 靖

最適通貨圏論考……………清水 貞俊

三月前期のロイセンにおける「社会問題」と

社会政策および中間層政策の展開(五)……………川本 和良

国際的分業について……………岩田 勝雄

地主的土地清掃と南部民衆運動の交錯……………藤岡 惇

日本銀行金買入法小論……………伊藤 正直

足立教授の学問について……………後藤 靖

立命館在職三十二年の回顧……………足立 政男

足立政男教授略歴・主要著作目録

第二十九卷 第五号

後藤文治先生をお送りする言葉……………小牧 聖徳

論 説

実質消費支出の統計的性質について……………関 彌三郎

貧困化論のための覚え書……………三好 正巳

転換期の住宅問題……………奥地 正

市民所得統計を中心とした都市圏産業

連関表の推計と若干の応用分析……………鈴木 登

中国における「資本主義」復活理論……………小野 進

中京工業地帯と工業用地問題(上)……………杉野 冨明

政府の景気安定化政策について……………北野 正一

スタグフレーション理論および

政策に関する一展望……………河野 快晴

後藤さん「定年」と伺って……………松川 周二

……………建林 正喜

経済学と私……………後藤 文治
後藤文治教授略歴・主要著作目録

第二十九卷 第六号

論 説

戦後アメリカ巨大企業の組織変革……………坂本 和一

——マトリックス組織の形成とその意義——

「社会的共同業務」と国家(上)……………上野 俊樹

——国家の階級性と公共性の理解の前進のために——

研 究

『金融資本論』における株式会社、独占と

金融資本(上)……………佐々木秀太

一九世紀中葉イギリスの労働者生活と

生命保険(上)……………横山 寿一

——簡易生命保険の生成と展開——

第三十卷 第一号

論 説

全般的危機論の検討……………田中 宏道

立命館経済学総目次

中京工業地帯と工業用地問題(下)……………杉野 闕明
——高度経済成長期における工業立地と
それをめぐる社会経済的諸問題——

経済学史の意義とその方法(二)……………上野 俊樹
研 究

高度成長下における財政の社会・経済機能……………藤岡 純一
一九世紀中葉イギリスの労働者生活と

生命保険(下)……………横山 寿一

——簡易生命保険の生成と展開——

第三十卷 第二号

論 説

アメリカ巨大企業G E社(General Electric Co.)

の組織変革(一)……………坂本 和一

——事業部制組織・マトリックス組織・戦略事業単位——

「社会的共同業務」と国家(上)(二)……………上野 俊樹

——国家の階級性と公共性の理解の前進のために——

イギリス石炭鉱業と初期鉱山立法……………若林 洋夫

——一八四二年「児童雇用委員会」報告と

アンジュリイ法案を中心として——

政策科学と計量経済モデル(二)……………山田 彌

研究

『金融資本論』における株式会社、独占と

金融資本(下)……………佐々木秀太

「流通手段の前貸と資本の前貸」について……………浅田 和史

——久留間建氏の所説の検討——

第三十卷 第三・四・五号

記念論文集の刊行にあたって……………天野 和夫

八〇周年記念論文集によせて……………小檜山政克

論 説

兵器の共同研究・開発・生産……………木原 正雄

——核時代の経済——

勤労者家計の統計的研究……………関 彌三郎

二つの独占理論……………小檜山政克

——白杉庄一郎氏とルダコワ女史——

欧州通貨制度(E.M.S.)の発足とその

運営について……………清水 貞俊

西ドイツ経済専門家委員会答申の政策論理……………坂野 光俊

価値諸範疇の体系性について……………杉野 暲明

マルクス経済学における企業論の具体化……………坂本 和一

経済学史の意義とその方法(三)……………上野 俊樹

資本制の存続条件としての産業予備軍……………甲賀 光秀

石油危機における価格構造変化の多部門分析……………山田 彌

国際収支の均衡と貿易の均衡……………岩田 勝雄

景気安定化政策と国債問題……………北野 正一

資本主義の基本矛盾について……………角田 修一

大正期・昭和初期の信用組合論……………伊藤 正直

Aggregate された輸入需要関数における

関数形と価格の同時特定化について……………本田 豊

第三十卷 第六号

論 説

現代資本主義における労働者権利(一)……………三好 正巳

——労働政策論の課題と方法——

経済学史の意義とその方法(完)……………上野 俊樹

北東イングランド地域産業史分析序説……………若林 洋夫

研 究

低成長期における鉄鋼巨大企業の生産管理……………山本 幹夫

——鉄鋼一貫生産体制の新たな展開——

構造不況地域における離職者の動向と雇用問題……………湯浅 良雄

——京都府舞鶴市を事例として——

研究ノート

「窓口指導論」の課題……………河野 快晴

書 評

坂寄俊雄、塩田庄兵衛編『労働問題の

今日的課題』……………向井 喜典

立命館経済学総目次（第一巻―第三十巻）